



SUPPORTERS CLUB NEWS

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94

七戸町立鷹山宇一記念美術館内

鷹山宇一記念美術会友の会

TEL 0176-62-5858 FAX62-5860

受賞の感激を分かち合う

第二十六回デーリー東北賞贈呈式に参加

既にご承知のとおり、第二十六回デーリー東北賞に鷹山宇一先生はじめ三氏の受賞が決定し、さる一月二十三日に八戸グランドホテルにおいて贈呈式と祝賀会が開催されました。

福士七戸町長、濱中財団常務理事をはじめとする関係者とともに、美術館友の会にもご招待をいただき会長他の役員が友の会を代表して出席いたしました。

贈呈式ではデーリー東北新聞社の新山博昭社長より、北奥羽地域での文化・教育・学術・経済などの各分野で優れた功績を挙げた受賞者に敬意を表し、「より一層の発展を心から願う」とのご挨拶があり、賞状、記念品が贈呈されました。さらに美術館や友の会からも花束が贈られました。

また鷹山美術館の理事でもある福士孝衛七戸町長が来賓として、「名誉町民鷹山宇一先生の受賞はこの上ない喜びであり、町民こそって感激を分かち合いたい」との祝辞を述べられました。

した。

これに対して、鷹山宇一先生の長女で美術館副理事長の鷹山ひばりさんが鷹山先生のメッセージを代読され、出席者全員に深い感銘を与えました。(NEWS & REPORT面を全文で紹介しております)

引き続き行われた祝賀会の歓談のなかで、デーリー東北新聞社の方々より、鷹山先生の画業・功績は無論のこと、先生を顕彰する故郷七戸町の美術館、さらにこれを支える友の会活動のあり方も高く評価されているとお言葉を頂きましたので、会員の皆様にお伝えいたします。

鷹山宇一先生と今回の受賞の感激を分かち合うとともに、美術館の今後の発展のために会員の皆様と力を尽くしていきたいと考えつつ会場を後にしました。



役員会を開催

鷹山美術館友の会の役員会が二月二五日に開かれ、これまでの活動や今後の事業、友の会活動のあり方などが検討されました。

席上第五回目の研修旅行について、多摩市の東京国際美術館で開催される鷹山宇一卒寿記念展(当館共催)と、日頃当美術館がお世話になっている北川フラム氏がアートプランナーとして携わったプロジェクト「フアーレ立川」を巡る計画が提案され承認されました。

恒例の春季二科展の期間中でもあり連休中の混雑も考え、五月の九・十日に初め

ての宿泊研修として実施することに決定しました。

次に盛田副会長より、常々会員の皆様から実現を期待されており、海外研修旅行について検討を始めたこと、開館五周年記念事業として平成十二年を目的にアンケートなどを実施しながら具体案を作成し会員に呼び掛けていくことになりました。(詳細は二面をご覧ください)

また、中程のNEWS & REPORTは美術館としての活動を報告する館報としての役割を意識して編集している訳ですが、今後より性格付けを明確にしていくことで意見が一致しました。

春季二科展ボランティア・スタッフを募集

鷹山宇一記念美術館では毎年好評をいただいております春季二科秀作展を、本年も社団法人二科会ほかのご協力により開催いたします。

期間は4月25日(土)から5月17日(日)までで、期間中は休館日はありません。

例年多くの方のご来館をいただきますが、展示作品と鑑賞者の安全のために館内の監視にあたるスタッフがが必要になると予想されます。展示室監視等の簡単な仕事で協力できる時間内で結構ですので、本物の芸術に触れながらボランティア活動をしてみようと思いの方はぜひ美術館までご連絡下さい。

(TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860)

特に本年は、期間中に東京国際美術館において鷹山宇一卒寿記念展が開催されるため美術館の仕事量も多く、ボランティア・スタッフのご協力が一層期待されています。友の会会員を始め多くの方々のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

おしらせ  
平成十年度  
友の会研修旅行

◆研修先◆  
①東京国際美術館  
(東京都多摩市)  
②フアーレ立川  
(東京都立川市)

◆と き◆  
五月九日(土)〜五月十日(日)  
一泊二日

◆参加費◆五〇、〇〇〇円  
(往復航空機運賃・片道モノレール、電車運賃・九日昼食代、宿泊費込み)  
◆募集人員◆二十名まで  
締切◆四月二十日(木)

**スケジュール(予定)**

5月9日(土)  
8時30分 三沢空港集合→三沢空港(JAS222便)→東京国際空港→多摩センター着  
9時20分  
10時40分  
13時00分  
14時00分 昼食→東京国際美術館→フアーレ立川→新宿プリンスホテル着  
17時00分  
20時00分頃  
5月10日(日) ※各自フリータイム  
16時30分 東京国際空港集合→空港発(JAS229便)→三沢空港・解散  
17時30分  
18時40分

※現地集合・解散による参加も可能です。詳しくは美術館まで。

研修先の簡単なご案内  
①東京国際美術館

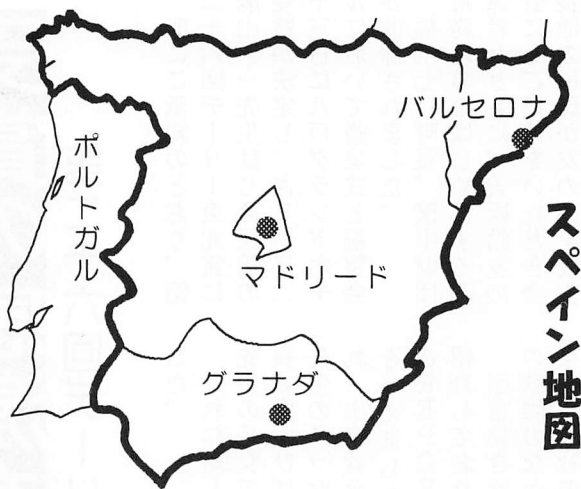
「鷹山宇一 卒寿記念展」を鑑賞します。詳しくは、美術館ニュース&レポートを参照下さい。

②フアーレ立川

JR立川駅北口に広がる旧米軍跡地を、世界三十六カ国九十二名の現代美術家たちの作品でちりばめ、アートの街として再開発した「フアーレ立川」。この企画のアートプランナーは、スペイン民芸資料館に常設されているスペイン陶器を寄贈下さった、北川フラム氏(アート・フロント・ギヤラリー代表)です。

美術館開館五周年記念  
スペイン  
美術館巡りの旅

スペイン旅行の第一プランができました。皆様のアンケートも参考に、これから旅行の詳細を決定したいと思いますが、大まかな所をご紹介します。まず、バルセロナを中心に、カタルーニヤ地方の芸術を心ゆくまで堪能します。マドリッド、グラナダにもたくさん美術館があり夢は広がってきます。一週間程度の旅行計画で、次号に具体的なプランを載せますのでご期待下さい。尚、旅行費用の積立プランも考えております。



スペイン地図

皆さん、一緒にスペインへ行きましょう！上の地図をご覧になって、旅行の夢を膨らませて下さい。

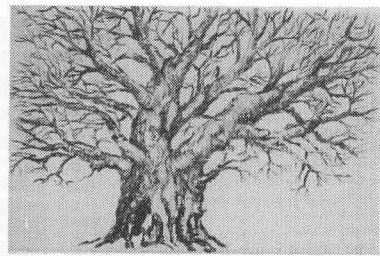
平成九年十一月二十九日、三十日  
銅版画教室参加者からの声

版画制作の喜びを  
味わう 下山耕美子

子供達の思いをどう表現するかと言う悪戦苦闘の美術学習の中や多忙な職務の中で、つい忘れかけていた制作の喜びを味わわせて戴いたのが美術館主催の「ワークショップ」銅版画(様々な表現が生まれるまでその技法と刷り)でした。

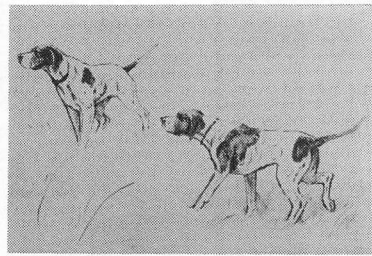
今、注目の第一線で活躍中の戸村茂樹先生がご多忙の中、講師として直々ご指導下さる、しかも、たった五人限定でと言う企画に真っ先に飛び付きました。

企業秘密のような特異の技術を持ち合わせている専門家はなかなか具体的には制作の核になる部分は教えていたくないものなのですが、戸村先生には素人に



K. Shimoyama

解せないほどの親身な姿勢と熱意が感じられました。初日は多様な表現技法を駆使した作品を元に、刷りの実際をじかに見せていた大きな講義でしたが、精密機械のようで、まさに命の息吹が感じられる微妙な雰囲気作りにただただ感じ入るばかりでした。

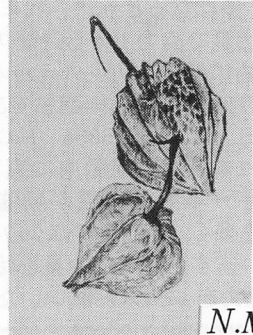


F

ワクワク・ドキドキの二日目、申し込み順で洩れた熱心な参加者に多少の申し

訳なさを感じながら、それでも手取り足取りの個別指導に優越感をも覚えながら制作活動を休憩の時間も惜しんで続けました。

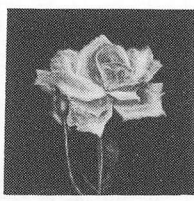
初めてのドライポイントによる銅版画。戸村先生の魔法の手で刷って戴き、自分のそれとの明らかな違いにただなっとく！その上、御自分のアトリエまでお持ち帰りになって刷った作品を送り返して下さるなど、五人限定がなるほどと唸っ



N. Morita

てしまう中身の濃さにまたまた感謝で一杯でした。ご指導いただいた「メゾチント」の技法にぜひ挑戦したいとの願いからさっそく銅板を注文、また、中学校教育研究会・美術部会の冬季版画研修会でも仲間と手探りで初体験を喜び合いました。

まだまだ制作に没頭すると言う時間的なゆとりを見出せない状況では有りますが、今回の貴重なご指導を忘れずに今後も美術の素晴らしさに浸る心の豊かさをもち続けたいものと思えます。(西野小・中学校勤務)

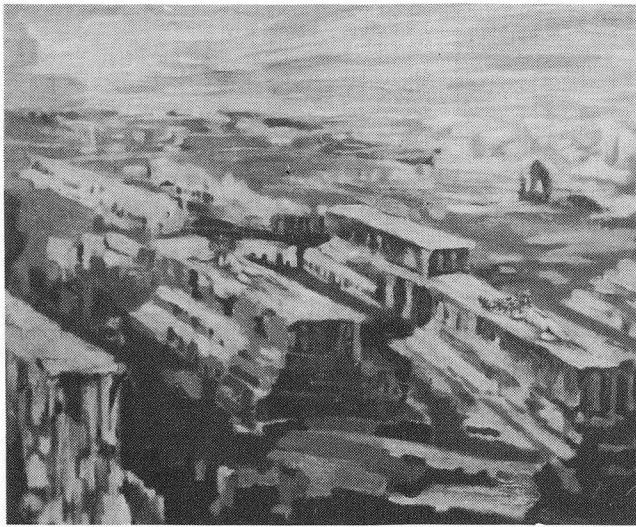


M. Tsukao

# 鷹山宇一 記念美術館 NEWS & REPORT

1998. 3 号 vol. 9

「めざめ」(油彩・二〇号) 一九四七年



この度、鷹山宇一「めざめ」を鷹山宇一記念美術館資料として購入することが、(財)鷹山宇一記念美術振興会平成十年第一回理事会において承認されました。

「めざめ」(油彩・二〇号)は、一九四七(昭和二十二年)第三十二回二科展に出品された作品であり、鷹山宇一の画業の一端を示す歴史的な作品でもありません。

実際に作品を目にした印象を言葉として表現するならば、「落日の、もしくは朝日に輝く砂漠色」といった色調の画面に、荒涼とした世界が広がっている…。

そのような印象を受けました。しかも、よく目を凝らして見ると、廃墟と化した神殿のようなものの上に、今まさに目覚めようとしている裸体の女神(?)が二人横たわっている…という、とても珍しい作品です。

鷹山宇一が何に触発されて描いたものなのでしょう?か?謎はつきません。ただ、同年の二科展には、「めざめ」のほか、「少年の日の佛陀」また、「めざめ」と同じ女神(?)が登場する「黄昏」の二点が出展されています。もしかしたら…荒涼とした砂漠のような世界は、中国敦煌の仏教美術で有名な岩屋・莫高窟や、インド・アジャンターなどの数ある石窟寺院をイメージしているのではなからうか?そして、当時鷹山には、仏教美術、または東洋の神秘的なものに対する関心・憧れが強くあったのではなからうか?…などと、想像は大きく膨らみます。

「めざめ」は「鷹山宇一画集」六十七ページ十番に掲載されています。また、同ページ十一番、十二番が同年の二科展に出品された作品です。当館での公開はまだ未定ですが、鷹山宇一の世界の、新たな一面をご覧いただけることは間違いありません。どうぞお楽しみに。(学芸員)

## おしらせ

### 「鷹山宇一卒寿記念展」 会場 東京国際美術館

平成十年四月二十九日(水)～五月十七日(日)

当館では、東京国際美術館(東京都多摩市)との共催により、「鷹山宇一卒寿記念展」を開催します。

一九〇八年青森県七戸町

に生まれ、本年卒寿を迎える鷹山宇一。絵の制作を始めてから七十五年の節目の年でもあります。これを記念し開催する今展は、二十世紀の美術文化を振り返るとき、その最も華やかなる時代に活躍した鷹山の芸術を、改めて検証するもの

です。

一般には未公開のデッサン・版画約一〇〇点のほか、油彩画約六〇点で構成します。

◆開館時間  
午前一〇時～午後五時三〇分  
最終日は四時終了

◆休館日  
毎週火曜日  
(火曜祭日の場合は翌日)

◆入館料  
大人 一、〇〇〇円  
高校生 八〇〇円  
小学生 六〇〇円

### 東京国際美術館

我が国最大の多摩ニュータウンのセンター地区に平成二年十一月三日開館。

多摩センター(総面積約七十六万㎡・新宿副都心の約二倍にあたる)は、日本の頭脳センターとして計画され、日本を代表する企業の「ソニー・データ・センター」等に、周辺の約六十の大学に研究所が加わって日本の高度情報社会を象徴する地区として整備が続けられている。

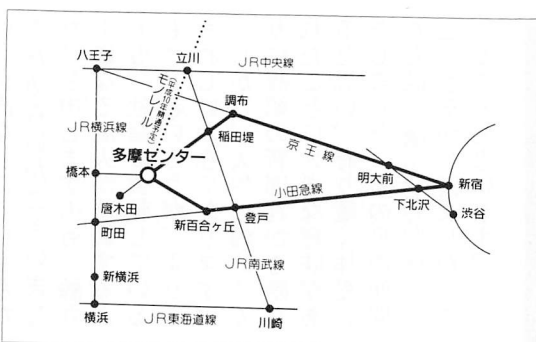
東京国際美術館は、優れた美術品を鑑賞する機会を提供して地域の文化的生活に寄与するにとどまらず、この地区に相応しい設備をもつた「BRANZ CURR東芝運営」で世界の名画をデジタルで紹介したり、一九九五～六年にはNET

マルチメディア通信共同利用実験に、日本を代表する研究所など一七実験の一つとして参加し電子美術情報実験を行うなど、新時代の芸術創造に貢献することをより大きな目的として掲げている。

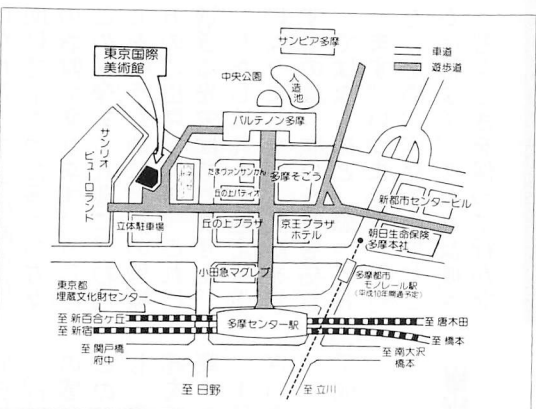
(東京国際美術館パブリックから抜粋)

※友の会では、今年度の研修旅行先として予定しています。詳しくは「パンフレット」を参照して下さい。

### 首都圏からの交通のご案内



### 美術館周辺の略地図



# 贈呈式並びに祝賀会 Report

第二十六回デーリー東北賞に、鷹山宇一先生の受賞が決定したことは、前号でお伝えしたところですが、その贈呈式並びに祝賀会が一月二十三日、八戸グランドホテルにおいて開催されました。

当日、鷹山先生の代理として長女ひばりさんが出席、鷹山先生の受賞にあたってのご挨拶を披露して下さいましたので、この場を借りてご紹介します。



デーリー東北賞贈呈式にて  
鷹山宇一先生長女ひばりさん(右)

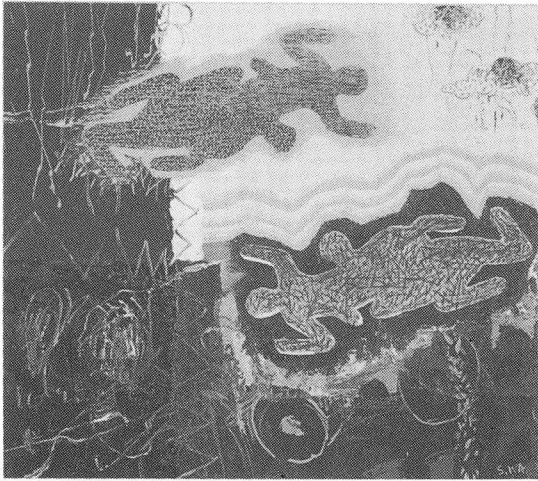
本日、栄えある「デーリー東北賞」を受賞いたしました喜びを、一言ご挨拶申し上げます。

若い頃、絵描きとしてなかなか自立できず、苦しい生活を送っていた時に、自分分は「大器晩成」型なのだから、と常におのれに言い聞かせておりました。幸か不幸か、わたしには協調性とか社会性が欠落しており、人と妥協する仕事ができなかつたため、絵筆一本の生涯を全うすることができませんでした。「故郷は遠くにありて想うもの」と詠った詩人がいますが、わたしのような絵描きとか、詩人とか、小説家というものは、当時から胡散臭い目で見られたものです。

しかし、仲間同士で世間にながわ

るか、と飲み明かしていた夜も、いきがって走り抜けていた頃も、心の片隅ではいつか「ふるさとに錦を」と願い、どこよりもまず生まれ故郷で、認められたいと念じていたものであります。

絵描きになりたいと、この道を歩み始めて、七十五年の歳月が流れました。青山袁囚先生はじめ、棟方志功や西村健次郎ら、わたしの舵をとって善導して下さいた恩師・恩友がみな鬼籍にはいつてしまった今、あの若いときの想いが夢が、現実になつているわたしは、なんと幸せ者でありましょうか。



今展のポスター・チケット等を飾った  
「二科会絵画部会員・理事  
伊庭新太郎先生「トブヒト・カケルヒト」

昨秋、受賞の知らせを受け、正直なところいささかのためらいがございました。と申しますのも、齢九十になる老人が頂戴するよりも、社会に貢献しているもつと若い方々が、よりふさわしいからであります。

しかし、人生の締めくくりに故郷の新聞社から贈られたことに大きな意味があると思ひ、有り難く拝受いたしました。あの世の仲間たちは、「鷹山、お前は……」と、さぞかし羨ましがっていることと思ひます。

今日、画家として一人前になれたのも、その時々、助けて下さった多くの方々のお陰であります。今日のこの荣誉ある式典に、わたしを祝うために七戸の皆様方のご出席を仰ぎ、これに過ぎる光栄はありません。

わたしは九十を迎える歳になりましたが、芸術を志すものは、咲いた花を枯らすのはならぬと、思つております。いつまでも、艶色をとどめ、作品の中でどこか品性よく、それを反映させ若々しさを保つて行かな

## 美術館 ◆ 春の企画展 四月二十五日(土)～五月十七日(日) 春季二科展

### 二十世紀初頭から、常に時代の最前線を歩いてきた二科会。

「造形上の実験的創造に挑んで……」毎年三月、東京・松屋銀座で開催されている春季二科展は、二科会絵画部・彫刻部会員による主に最新作の発表の場となっております。

東北では当館だけの開催とな

ければ、若い世代から見捨てられてしまいます。「日暮れてなお道遠し……」の感がありますが、今日のこの受賞を心新たにいたし、稟とした一輪の薔薇の花を咲かせ続けたい、と念願いたしております。

本日は、誠に有り難うございました。

平成十年正月二十三日

鷹山宇一

鷹山宇一記念美術館  
お茶とお菓子のサービス  
4月26日(日)  
主催 淡交会十和田青年部

## おしらせ

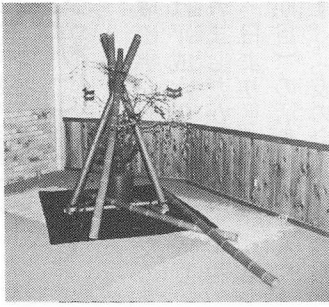
絵馬館では、ほぼ三ヶ月ごとに展示替えを行っております。次回の資料の入れ替えは、三月二十四日頃の予定です。どうぞお楽しみに。

# 美術館

## 日誌より

「十一月」  
正月飾りの設置（二十六日  
～一月七日）

暮れも押し迫った二十  
日、高田雨草先生と七戸ア  
ートフォーラムのメンバ  
ーがいらして、毎年恒例とな  
っている正月飾りを絵馬館  
手前の渡り廊下に設置して  
くださいました。窓から差  
し込む暖かな日差しと桃の  
花をイメージさせる木を配  
置した独創的な正月飾りで  
その一角は、一足早い春の  
空気でした。そんな素敵な  
正月飾りなのに実際にご覧  
になっていただけただお客様  
の数は、そう多くはありま  
せんでした。正月の美術館  
にはこんな試みもあること  
をもっとお知らせする必要  
があると思いました。



フクロウの置物  
フクロウの置物のコレク  
ターである当館関係者から  
収集品の一部をお借りして  
受けつけカウンターのヤ本棚  
の上に飾らせてもらってい  
ます。来館の折に気づかれ  
た方も多いかと思えます。



中には、オルセー美術館所  
蔵作品のポンボン・フラン  
ソワ氏の彫刻作品のレプリ  
カもあります。その他、か  
なり珍しい物や、フクロウ  
の折り紙作品まであり一見  
の価値があります。「これ  
は、売り物ですか？」と、  
声をかけられることも多い  
のですが残念ながら今のと  
ころ販売は致しておりませ  
ん。いづれ何かの形で当美  
術館グッズの仲間入りが出  
来ればいいなあと思ってい  
ます。

「二月」  
デーリー東北賞の贈呈式に  
出席（二十三日）  
私達の敬愛する鷹山宇一  
先生が伝統あるデーリー東  
北賞を受賞され、その贈呈  
式と祝賀会が八戸グランド

ホテルで行われました。当  
日は、館職員をはじめ関係  
者の方々と出席させていた  
だきました。鷹山先生の代  
理でお見えになった長女鷹  
山ひばりさんが代読された  
受賞者挨拶には、鷹山先生  
のこれまでの絵に対する真  
摯で、限らない熱い思いが  
伝わってきて深く感動して  
しまいました。鷹山先生本  
当におめでとうございます。  
これからもますますご活躍  
くださることをみんなでご  
祈念いたしております。

### 「二月」

#### 冬の美術館

一月には、ゴーゴーという  
風の音とともに渦を巻いて  
雪粉が美術館の窓にぶつか  
ってきていたのに二月も立  
春が過ぎる頃あたりから、  
日脚も伸びて、中庭の雪の  
量も目に見えて減ってしま  
す。お客様の中には、「ゆ  
っくりと見せてもらいまし  
た。すばらしいですね」と  
声を受付にかけていかれる  
方がいらっしやいます。こ  
んな時は、とてもうれしい  
ものです。この時期に来館  
されるお客様は、ゆっくり  
時間をかけて館内を回られ  
る方が多いような気がして  
います。美術館をゆっくり  
堪能するにはお客様の数が  
少ない分冬こそ一番なか  
もしれません。  
(森)

## 遠い日の色彩

佐々木洋子

NHKテレ  
ビで「夢用絵  
の具」という毎  
回テーマカラーを  
決めて色に対するゲ  
ストのこだわりや生  
きざまを思い出として  
語る番組があるが、私  
の中にも幼年の頃の遠い  
記憶の中に色が思い出と  
してある。祖母が縫ってく  
れた人形の着物やお手玉は  
着物の残り布で渋い地味  
な色だったが、今で言うパ  
ッチワーク様で小さな布を  
何枚も端合わせて作った物  
であり、更に人形の着物に  
は赤い裏地までしっかりと付  
けてあった。柳ごうりを  
背負った通いの葉屋さん  
からもらった紙風船は  
透明なゼロハンに赤や  
青の縞模様になって  
いた。下駄をはいて  
いた時代の鼻緒は  
なぜか赤だけだ  
った。おはじ  
き、ビー玉  
のカラー  
ルな

がそ  
こにあ  
るような気  
がして……  
自分色の色や形  
を求めて……。  
(友の会公員)

### ことば

\*柳行李(やなぎごうり)  
コリヤナギの枝の皮を除  
いて乾燥させたものを麻  
糸で編んで造った行李。  
やなぎごうり。  
\*雪の下(ゆきのした)  
りんごの一品種。  
\*「国光」の別称  
\*ダイナカ  
りんごの一品種  
\*「祝(いわい)」の別称  
\*凌霄花(のうぜんかずら)  
蔓性落葉樹。中国原  
産の観葉植物。夏葉頂  
に橙赤色の大花を開く。  
\*角巻(かくまき)  
大型で四角い、毛  
布の肩掛。東北  
地方でいう。

色、ラムネのビン、葉ビンのぼつてりした透明な水色、紙で出来ている着せ替え人形の服を作るための色紙(いろがみ)はビロードや模様入りがたくさんあつた。食べ物で思い出すのは干し餅の赤、緑、黄色、すぐりの緑、かき氷の赤、冬のリんごの赤い雪の下、夏のリんごの青いダイナカである。初めての運動会で着た赤のジャンパースカートに白いブラウス、濃い茶のズック、夏、ネプタが終わると壊したネプタの紙をもらい水に入れて色水屋さんごっこをした。近所に毎年夏に高い木の上から地面(じべた)まで見事に咲き乱れていた朱色の「のうぜんかずら」、裏にあった一本の柿の木に咲く白い花、その花の落ちたのを薫に通して首飾りを作った。冬の吹雪の茶色の母の角巻……たくさんの色に囲まれて過ごした幸せな日々。今私はアンティークにとっても魅かれている。昔から好きだったものが、幼年の頃気が付かなかつたもの

# 会員登録の更新について

## 会費規程

(規約第五条)

鷹山宇一記念美術館友の会は平成六年十一月に設立されましたが、平成十年四月一日より平成十年度(第四期目)の活動期間に入ります。(友の会規約は会報第一号に掲載しております。また必要な方は美術館にご連絡下さい。)

■一般会員  
年額三千元

特典  
・無料入館券(三枚)送付  
・入館料・ミュージアムグッズ(一部対象外)割引  
・会報の送付、研修会・講演会等の連絡

■特別会員(個人)

年額一万円

特典  
・会員証の提示により入館無料(本人と同伴者一名)  
・入館料・ミュージアムグッズ(一部対象外)割引  
・会報の送付、研修会・講演会などの連絡  
・新規加入の方には画集一冊贈呈

■特別会員(法人)

年額二万円

特典  
・会員証の提示により入館無料(本人と同伴者三名)  
・入館料・ミュージアムグッズ(一部対象外)割引  
・会報の送付、研修会・講演会などの連絡  
・新規加入の方には画集一冊贈呈

お問い合わせは

(電話)0176-62-5858(まで)

## 動機が不純な美術館めぐり

大下内 尚

ある時暇つぶしにぶらりと入った美術館がある。場所とか、展示内容については記憶が定かでない。

順に従って作品を見て行く内にふと気が付いた。前に居た素敵な女性と何となく歩調が合っている。いや知らず知らずの内に合わせていたのかも知れない。

合法的に素敵な女性と数時間過ごせる。美術館とは何と素晴らしい所なのか。ある日「火曜サロン」の

案内を頂いた。七戸町にある鷹山宇一記念美術館関係者からの案内であった。最初の内は美術に無関心でもあり無視していたが、ある

時初めて入った美術館で、ほのかな香りを残して過ぎ去ったあの素敵な女性の思い出が甦った。

七戸の美術館でも・・・もしかしたら。又不純な動機で「火曜サロン」に出席したのでした。

この「火曜サロン」毎月第二火曜日に行われているので、別名「二火会」とも

呼ばれている様だが、会の趣旨は「形式にとらわれない美術に関する情報交換の

場」と言われていて誰でも参加出来る、自由に発言出来る会で非常

に良い試みだと思われる。回を重ね三十

六回を数えたこの「火曜サロ

ン」。関係者の努力に敬意を表します

今又美術館グッズを開発中

で、二、三試作品も出来たように聞く。早く出来上がるのが楽しみです。

私はよその美術館に行つた時、何か記念になる様な物を購入して来るが、鷹山

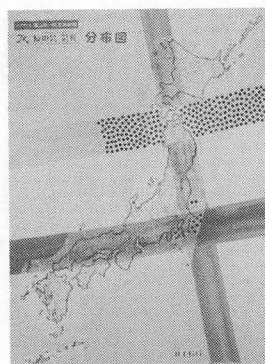
特に考慮したのは一口サイズでヘルシーであるという事

です。お陰様で試食会は大好評でした。そしてミュージアムクッキーの誕生

となつた訳です。まだまだヒヨコの私達です

が、これからもいっそう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

七戸町地域活動G・H・K 代表 太田悦子



1 1 cm  
現 在 2 8  
制 中  
会 分  
員 員  
1 1  
現 在

## 美術館入り口

では、鷹山宇一記念

美術館グッズを販売しています。画集『鷹山宇一の世界』や作品写真のはいつたポストカード、テレホンカードからちよつとした贈り物にいい絵馬ハンカチやネフタイピンなどがあります。そしてこの春から新商品

が加わることになりました。制作グループからの声が届きましたので、ここに紹介します。

## 編集後記

(友の会会員)

友の会会報も十号を数えました。日頃の皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。会報につきましては会員の皆様と美術館とを相互に繋ぐ貴重な媒体として単なる報告に終わらぬよう心がけております。

特に美術館の公的な活動や記録については中間部分のNEWS&REPORT

に載せ、十分ではありませんが館報的な性格を持たせよう配慮しております。

なお前号の記事でタイトルに第三回研修旅行と書きました

が第四回の誤りでしたので訂正いたします。